

京都党の追求によって実現 その1 ～市バスの前乗り後ろ降りの実証実験～

市バスは前から乗って後ろから降りの方が停車時間が短くなり、バスは早く走れるとかねてから指摘をし続けてきた。やっと今年から一部路線で実証実験がはじまる。京都党の指摘で始まったコキンライナー（地下鉄終電の延長）もさらに拡充させるよう検討中だ。



京都党の追求によって実現 その2 ～救急相談センター検討開始～

「救急車呼ぶべき？病院行くべき？」と病気やけがで判断に悩む時、プロの医者や看護婦に相談出来たら便利では？東京で実施しているこの制度を京都でも実施するよう強く要請。市民も喜び、救急出動のコストも削減が期待できる。本件について今年から具体的に府と協議を開始した。



祝！「法定外新税の導入」 マニフェスト大賞2016 優秀政策提言賞受賞！



マニフェスト大賞2016に応募された約2,700件の取組の中から市会議員団で取り組んだ「法定外新税の導入」が優秀政策提言賞に選ばれました！
残念ながら最優秀政策提言賞をいただくことはできませんでしたが、京都府舞鶴市長のマニフェストが今回マニフェスト大賞を受賞されました。受賞された素晴らしい政策や取り組みも拝見し、今後の政策立案の参考にしてまいります。「ほんまものの政策集団、京都党」より一層、精進してまいります。

森かれん事務所

〒602-8384 TEL 075-366-6431
京都市上京区紙屋川町1038-22 FAX 075-366-6431

森かれん

元気モリモリ通信 Vol.4



平成28年度 渾身の質疑集！

- ◆京都市美術館ネーミングライツ
- ◆ふるさと納税で10億円マイナス!?
- ◆債権管理条例の制定について など

京都党の追及によって実現

- ◆市バス前降り後ろ降り実施検討
- ◆救急相談センター検討開始

議員が接することの少ない人々とは？

議員が普段接する機会がほとんどない人々とは、ズバリ「20代から30代の女性」です。日中は仕事や育児に追われ、地域行事にもなかなか出てこれない人々は残念ながらお会いすることがほとんどありません。しかし、幅広い市民の皆様からご意見を頂戴するためには議員から会えない人々と接点を持つことは非常に重要なことだと考えます。

京都党会派は全国でもまれにみる20代・30代の女性議員がいます。この強みを生かし、不定期ではありますが、「京都党女子会」を開催し、育児と仕事の両立や今後の家族の形はどうあるべきかなど貴重なご意見を頂戴し、政策立案の参考にしております。ご興味のある方は「森かれん公式サイト」へのアクセスをお願いします。

森かれん

平成28年度 渾身の質疑集！～予算決算質疑のダイジェスト～

京都市美術館 ネーミングライツ

改修総費用約100億円、その半分を命名権を取得する代わりに京都市に支払うとする「ネーミングライツ」について、9月議会で紛糾した。この問題で考えなくてはならないのは、京都市はとうとう美術館の再整備費用を捻出するために「京都市美術館」の名前を企業に売ったという重みである。ネーミングライツの活用によって、市民認知が「京セラ美術館」に代わっていくことは明白である。私たちは全ての事業において「この事業がしたいから費用が必要」という考え方ではなく、「限りある予算でできる範囲内の事業をする」という考え方に立つべきだと主張してきた。

この問題を通じて、整備費が支払えないほど京都市財政は火の車である事を認識する契機にすべきである。



有料ごみ袋で集めたお金の行方

有料指定袋の手数料収入は約18億円であり、地方自治法で「ごみ収集運搬とごみ処分にかかる経費に充当する」と使い道が定められている。しかし、そのような事業とは関係のない地球温暖化対策などに約7億円充てられているのが実態だ。

そもそも、市民の皆様からごみ処理について負担をお願いしている主たる理由は「東部山間埋立地の延命」である。焼却灰溶融炉施設の契約解除後から未だ打開策が見いだせず、延命のための開発・調査費用さらに維持費も含めると今後何百億と必要だと言われている。まず、有料指定ゴミ袋で集めたお金の使い道を改めるとともに、延命にかかる費用に積み立てるべきだと指摘した。



債権管理条例制定すべし！

公共サービスに対する料金の滞納については、これまでは各料金を徴収する部門がバラバラで、Aという人がどの税金をどのくらいの期間滞納しているかは誰も把握していなかった。これまでも京都市に対して徴収業務一元化を求めてきたが、一元化は業務コストを下げるだけでなくこれまで滞納している市民の状態を総合的に把握できることがメリットである。

滋賀県野洲市で制定された庁内各所属との連携体制の構築と、生活困窮者対策と長期的視野に立つ債権回収が期待できる「債権管理条例」の制定と税徴収に関する進捗管理を行う部門を設けるべきと9月議会で質問し、2月議会において債権管理条例制定が可決された。



使用済みてんぷら油燃料化施設の今後

家庭から出る天ぷら油を回収しその後燃化にする施設であるが、年間経費約2億円、ごみ収集車に搭載する燃料の製造コストは1ℓ＝163円と採算の合うものではない。本施設は京都市が他都市に先駆けて手掛けた事業であり、市民に対する環境意識への向上につながると続けてきたが、来年度からごみ収集車両は老朽化に伴う新型車両の導入によって以前までの100%使用済みてんぷら油由来の燃料が使用できないため、CO₂削減効果は減る見込みであることが発覚している。

廃食油はその後有効活用できることから、無料で引き取る業者も出てきている。本施設ならびに回収事業は民間へ移行し、京都市の独自事業としては廃止も検討すべきであるだと指摘した。



本年度も市長総括質疑など怒涛の質疑を行いました！



ふるさと納税で10億円マイナス!?

ふるさと納税で都市部の税収減が拡大していることは報道でも取りざたされているが、京都市は、約10億円の減収で全国の市区町村でワースト8位となった。ふるさと納税は、返礼品の代金や決済システム等の運営費、広告費などの支出が掛かり、日本全国トータルで見れば自治体の収入減である。加えて、総務省から通達が出ているものの、返礼品競争が収まる気配自分の故郷に納税するというよりは返礼品が魅力的なところにお金を払うという感覚になってしまっている。

本来の趣旨に立ち返った制度改正そのものを求めるとともに、同じく減収になっている都市部と協同でふるさと納税に対する声明を出すべきだと指摘した！

